



## 平成 27 年 2 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成 26 年 10 月 10 日

上場会社名 株式会社柿安本店 上場取引所 東  
 コード番号 2294 URL <http://www.kakiyasuhonten.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 赤塚 義弘 (TEL) 0594(23)5500  
 四半期報告書提出予定日 平成 26 年 10 月 10 日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有・無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成 27 年 2 月期第 2 四半期の連結業績 (平成 26 年 3 月 1 日～平成 26 年 8 月 31 日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27 年 2 月期第 2 四半期	21,125	4.2	1,045	△2.3	1,061	△1.8	536	△4.8
26 年 2 月期第 2 四半期	20,281	△2.0	1,069	△8.9	1,081	△8.7	563	△6.9

(注) 包括利益 27 年 2 月期第 2 四半期 544 百万円 (△4.4%) 26 年 2 月期第 2 四半期 569 百万円 (△4.9%)

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27 年 2 月期第 2 四半期	45.28	-
26 年 2 月期第 2 四半期	45.28	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27 年 2 月期第 2 四半期	18,697	13,096	70.0
26 年 2 月期	18,170	13,026	71.7

(参考) 自己資本 27 年 2 月期第 2 四半期 13,096 百万円 26 年 2 月期 13,026 百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26 年 2 月期	-	0.00	-	40.00	40.00
27 年 2 月期	-	0.00	-	-	-
27 年 2 月期(予想)	-	-	-	40.00	40.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有・無

### 3. 平成 27 年 2 月期の連結業績予想 (平成 26 年 3 月 1 日～平成 27 年 2 月 28 日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	44,727	5.1	2,671	23.5	2,686	22.0	1,472	29.0	124.27

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有・無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有・無  
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有・無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有・無

② ①以外の会計方針の変更 : 有・無

③ 会計上の見積りの変更 : 有・無

④ 修正再表示 : 有・無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年2月期2Q	12,446,700株	26年2月期	12,446,700株
② 期末自己株式数	27年2月期2Q	600,509株	26年2月期	600,470株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年2月期2Q	11,846,206株	26年2月期2Q	12,446,296株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明, その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に表示される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。

なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第2四半期連結累計期間についても百万円単位に組替え表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・金融政策により緩やかな回復基調にあるものの、消費税増税による景気の下振れ懸念や輸入原材料等の価格上昇等により、先行き不透明な状況が続いております。

食関連業界におきましても、原材料価格やエネルギーコストの上昇や消費税増税等に伴う可処分所得の実質目減りにより厳しい環境が続いております。

このような環境の中、当社グループは、食材の市場及び生産者からの直接買い付けを拡大するとともにこれらによる商品力強化を図ってまいりました。

出退店、改装につきましては、「口福堂」15店により和菓子事業の展開強化を継続するとともに大型ショッピングセンター内へフードコート対応型店舗「グリルカキヤス イオンモール名古屋茶屋店」を出店するなど計18店を、また改装を9店実施しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は21,125百万円（前年同期比4.2%増）、営業利益は1,045百万円（同2.3%減）、経常利益は1,061百万円（同1.8%減）、四半期純利益は536百万円（同4.8%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### (a) 精肉事業

焼肉やバーベキュー、冷しゃぶなどの夏商品の品揃えを強化するとともに、柿安オリジナル「柿安牛」や松阪牛をはじめとするブランド黒毛和牛による販売促進、また肉質が赤身主体でヘルシーな「あか牛」の拡販に取り組みました。

この結果、当事業の売上高は7,127百万円（前年同期比2.4%増）、セグメント利益は580百万円（同8.1%増）となりました。

#### (b) 惣菜事業

夏の定番商品「うなぎ&牛めし」弁当の刷新や「スパイシー黒胡椒チキンのBBQ串」「甘辛ガーリックチキン」などの9アイテムを揃えた“夏チキン”企画などにより店頭の季節感を強く打ち出すとともに、ローストビーフの定番商品への育成を図りました。

この結果、当事業の売上高は6,224百万円（前年同期比2.4%増）、セグメント利益は502百万円（同8.8%減）となりました。

#### (c) 和菓子事業

“冷やしておいしく”企画において、「葛まんじゅう」「クリーム大福」や「わらび餅」などにより、夏の涼菓の訴求を行うとともに、「ぶどう大福」の投入により品揃えを強化しました。

また、盆明けからは「スイートマロンどら焼き」の全面刷新や新商品「栗きんとん大福」により秋の演出を図りました。

この結果、当事業の売上高は3,190百万円（前年同期比30.7%増）、セグメント利益は262百万円（同73.3%増）となりました。

(d) レストラン事業

グリル業態のステーキ導入店舗の拡大を継続的に進めるとともに、ハンバーグとカレーの複合型フードコートレストラン『グリルカキヤス イオンモール名古屋茶屋店』を開設しました。

また、シニアデー企画の投入や、入店先SC企画との連動販促を実施しシニア層の取り込みを強化しました。

この結果、当事業の売上高は3,004百万円（前年同期比5.9%減）、セグメント利益は197百万円（同29.3%減）となりました。

(e) 食品事業

百貨店カタログの新規枠確保や大型枠への強化とともにギフト商品への組み込み点数増や「牛肉しぐれ煮シリーズ」と和惣菜シリーズの組み合わせギフト商品の拡大を図りました。

この結果、当事業の売上高は1,578百万円（前年同期比1.1%減）、セグメント利益は155百万円（同16.2%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ526百万円増加し、18,697百万円となりました。

流動資産は245百万円増加し、10,590百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金が760百万円減少したものの、売掛金1,040百万円増加したことによるものであります。固定資産は281百万円増加し、8,106百万円となりました。その主な要因は、建物及び構築物が106百万円、建設仮勘定が43百万円それぞれ増加したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ456百万円増加し、5,600百万円となりました。

流動負債は519百万円増加し、4,551百万円となりました。その主な要因は、未払費用が221百万円、未払消費税等が210百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定負債は62百万円減少し、1,049百万円となりました。その主な要因は、長期借入金が85百万円減少したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ70百万円増加し、13,096百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金が62百万円増加したことによるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ760百万円減少(前連結会計年度比11.8%減)し、当第2四半期連結会計期間末には5,661百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は、457百万円(前年同四半期は、584百万円の獲得)となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益991百万円に対し、非資金損益項目等の調整を加減した営業取引による収入885百万円等であり、支出の主な内訳は、法人税等の支払額426百万円等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は655百万円(前年同四半期は、336百万円の使用)となりました。収入の主な内訳は、定期預金の払戻による収入600百万円等であり、支出の主な内訳は、定期預金の預入による支出600百万円、有形固定資産の取得による支出547百万円等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は562百万円(前年同四半期は、547百万円の使用)となりました。支出の主な内訳は、配当金の支払額473百万円及び長期借入金の返済による支出85百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成26年4月9日に発表いたしました「平成26年2月期決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載しております予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,021	6,261
受取手形及び売掛金	2,441	3,481
商品及び製品	247	237
仕掛品	124	195
原材料及び貯蔵品	167	174
繰延税金資産	221	208
その他	121	32
貸倒引当金	△0	-
流動資産合計	10,345	10,590
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,345	3,451
土地	2,282	2,282
その他（純額）	694	789
有形固定資産合計	6,321	6,523
無形固定資産		
その他	119	126
無形固定資産合計	119	126
投資その他の資産		
投資有価証券	196	209
繰延税金資産	246	245
差入保証金	732	768
その他	207	233
投資その他の資産合計	1,383	1,456
固定資産合計	7,824	8,106
資産合計	18,170	18,697
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,222	1,409
未払金	575	370
未払法人税等	528	488
未払費用	926	1,147
賞与引当金	363	377
役員賞与引当金	31	18
その他	384	739
流動負債合計	4,032	4,551



（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
<b>固定負債</b>		
長期借入金	532	447
退職給付引当金	16	9
資産除去債務	464	486
その他	98	105
<b>固定負債合計</b>	<b>1,112</b>	<b>1,049</b>
<b>負債合計</b>	<b>5,144</b>	<b>5,600</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	11,498	11,561
自己株式	△817	△817
<b>株主資本合計</b>	<b>13,025</b>	<b>13,088</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	0	8
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>0</b>	<b>8</b>
<b>純資産合計</b>	<b>13,026</b>	<b>13,096</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>18,170</b>	<b>18,697</b>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
売上高	20,281	21,125
売上原価	10,707	10,965
売上総利益	9,574	10,160
販売費及び一般管理費	8,504	9,114
営業利益	1,069	1,045
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	1	1
保険解約返戻金	5	-
その他	12	22
営業外収益合計	21	25
営業外費用		
支払利息	6	4
その他	3	4
営業外費用合計	9	9
経常利益	1,081	1,061
特別利益		
固定資産売却益	-	0
特別利益合計	-	0
特別損失		
固定資産除売却損	4	5
減損損失	28	64
特別損失合計	32	70
税金等調整前四半期純利益	1,049	991
法人税、住民税及び事業税	446	445
法人税等調整額	38	10
法人税等合計	485	455
少数株主損益調整前四半期純利益	563	536
四半期純利益	563	536

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	563	536
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5	7
その他の包括利益合計	5	7
四半期包括利益	569	544
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	569	544
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日）	当第2四半期連結累計期間 （自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日）
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,049	991
減価償却費	299	307
減損損失	28	64
賞与引当金の増減額（△は減少）	8	14
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△18	△13
退職給付引当金の増減額（△は減少）	1	△6
貸倒引当金の増減額（△は減少）	0	△0
受取利息及び受取配当金	△3	△3
支払利息	6	4
有形固定資産除却損	3	5
有形固定資産売却損益（△は益）	0	△0
売上債権の増減額（△は増加）	△939	△1,041
たな卸資産の増減額（△は増加）	△52	△66
仕入債務の増減額（△は減少）	241	187
未払金の増減額（△は減少）	2	△169
未払消費税等の増減額（△は減少）	60	210
その他	269	399
小計	956	885
利息及び配当金の受取額	3	3
利息の支払額	△6	△4
法人税等の支払額	△369	△426
営業活動によるキャッシュ・フロー	584	457
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△600	△600
定期預金の払戻による収入	600	600
有形固定資産の取得による支出	△316	△547
有形固定資産の売却による収入	0	0
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
差入保証金の差入による支出	△28	△26
差入保証金の回収による収入	9	13
その他	0	△93
投資活動によるキャッシュ・フロー	△336	△655
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△110	△85
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△435	△473
その他	△1	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△547	△562
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△299	△760
現金及び現金同等物の期首残高	6,574	6,421
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,275	5,661

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自平成25年3月1日至平成25年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	6,963	6,076	2,440	3,191	1,596	20,268	12	20,281	—	20,281
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	740	8	78	13	181	1,022	—	1,022	△1,022	—
計	7,704	6,085	2,518	3,204	1,778	21,290	12	21,303	△1,022	20,281
セグメント利益 又は損失(△)	537	550	151	279	133	1,653	△0	1,652	△582	1,069

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△582百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△601百万円及びその他調整額18百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「惣菜事業」セグメント及び「全社資産」において、店舗設備及び東京本部施設移設統合に伴う減損損失をそれぞれ5百万円、22百万円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において28百万円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日至平成26年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	7,127	6,224	3,190	3,004	1,578	21,125	-	21,125	-	21,125
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	720	9	59	41	162	992	-	992	△992	-
計	7,848	6,233	3,249	3,045	1,740	22,118	-	22,118	△992	21,125
セグメント利益	580	502	262	197	155	1,698	-	1,698	△653	1,045

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益の調整額△653百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△671百万円及びその他調整額18百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「精肉事業」、「惣菜事業」及び「レストラン事業」において、店舗設備の減損損失をそれぞれ5百万円、20百万円、38百万円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において、64百万円であります。